

一般社団法人 繊維補修補強協会
第九期（2019年10月1日から2020年9月30日）事業計画

1. 事業の方針

本協会の目的である「連続繊維補強材による既存コンクリート構造物の補修・補強工法の施工技術者の技術向上と工法の健全なる発展」に寄与する活動を推進する。

連続繊維補強工法に携わる施工技術者の人材育成を進めるため、「連続繊維施工士」及び「連続繊維施工管理士」資格者の育成とその普及、活用を推進する。

協会が進めている教育研修事業及び資格認定事業を、会員及び関係事業先に対し継続的な周知を図り、あわせて建設キャリアアップ制度への資格者の登録開始予定と合わせ、発注者、設計者並びに関係機関へ有資格者の活用に向け働きかけを行う。また、連続繊維補強工法関連の技術情報を収集整備し、会員他関係者への提供を行うなど、連続繊維補強工法を構造物の維持管理の有力な手法として社会に定着させる。

協会運営においては、連続繊維補強工法に対する技術情報整備を進め社会に発信し、公益的団体としての役割を担うと共に、会員各位の活動に貢献できるよう事業を推進する。

2. 事業計画の内容

(1) 教育研修事業の推進

1) 教育研修会の開催

連続繊維施工士及び連続繊維施工管理士を目指す施工技術者に対し、技術の研修を行う。

連続繊維施工士に対しては、施工技能者として必要な施工技能の他、連続繊維補強工法に用いる材料及び施工技術等の研修を行う。

連続繊維施工管理士に対しては、施工管理者として必要な知識として、連続繊維補強工法・使用材料の特徴、使用上の注意点並びに施工管理・安全衛生管理上の留意点等の研修を行う。

これらの教育研修に向けて研修会用テキスト等協会独自の教材を整備する。

2) 協会資格の浸透による受講意欲の向上

両資格の研修会参加意欲の向上に向け、公的指針等における資格者の必要性、建設キャリアアップ制度登録など、資格者活用に対する最近の状況を伝える。連続繊維施工管理士研修会に対しては、建設系団体の継続学習制度（CPDS）プログラム認定を受け、研修会の付加価値を高め、受講者への参加意欲向上を図る。合わせて研修会に対する関係団体の後援を求め参加者への浸透を図る。

3) 施工技術者評価の実施

連続繊維施工士及び連続繊維施工管理士の研修会受講者に対して、研修会終了後、検定試験により習熟度判定の評価を行う。

安定した技量評価のために、外部識者の指導による試験問題の作成を行い、客観性を持った結果の評価、判定を実施する。施工技能の技量評価については、直近の施工技術などを含め、基本となる施工手順など評価基準等の見直しを行う。

4) 研修会・検定試験開催予定

2020年の研修会及び検定試験の開催予定を以下の通りとする。但し今後の会場予定の調整及び参加者状況により変更の可能性がある。

[施工管理士]

①東京会場	2020年	4月上旬	予定定員	70名	(4月11日予定)
②福岡会場	〃	5月下旬	予定定員	30名	(5月30日予定)
③大阪会場	〃	7月中旬	予定定員	40名	
④仙台会場	〃	9月上旬	予定定員	30名	(9月5日予定)
計 4会場			予定定員	170名	

[施工士]

①東京会場	2020年	4月中旬	予定定員	35名	(4月4日予定)
②大阪会場	〃	7月上旬	予定定員	35名	
計 2会場			予定定員	70名	

(2) 認定資格登録事業の推進

1) 検定試験合格者の登録推進

連続繊維施工士及び連続繊維施工管理士の検定試験合格者に対し、資格登録を奨励する。登録者は、協会会報やホームページに氏名・所属団体等を都道府県別に掲載し、工事発注者や設計者等外部から確認することができるよう開示する。

2) 既登録者の資格更新の推進

連続繊維施工士及び連続繊維施工管理士の両資格とも、初回取得年より3年、継続更新後5年を有効期限としている。

登録資格者数の増加に伴い更新対象者も増加しており、更新登録はその重要性がますます高まってきている。当期末(2020年9月)で登録有効期限が満了する既登録者(対象者合計573名:施工士170名、管理士403名)、また失効更新可能な失効後5年未満の登録者に対しても、資格者活用の最近の状況などを伝え、更新意欲向上を図る。対象者への更新案内が着実に本人に伝わる様留意するとともに、登録資格者の所属団体からの更新奨励を図る。

更新者に対しては、研修会用テキスト及び実務資料を交付し、最新の連続繊維施工技術情報の修得による自己研鑽を督励する。

(3) 普及啓発事業

連続繊維補強工法に関する市場・技術情報を収集、検討整理し、研修会用テキストほか各種媒体の整備等に活用すると共に、研修会・資格認定試験・外部問合せ等に対

する協会の技術的基盤の強化を推進する。また、パンフレット、会報及び協会ホームページ等の整備並びに各種メディアへの広告・記事掲載等を通じて、協会活動を広く伝達し、連続繊維施工士及び連続繊維施工管理士の資格制度の普及を推進する。

1) 技術情報等の収集整備

行政の動向ほか協会内外の連続繊維補強工法に関する技術動向、J I S等関係規格類・指針類の制定・改正等の状況、土木・建築の補修補強市場の状況並びに技術ニーズ等を適宜収集整理し、関係技術資料・指針等を蓄積整備する。また、連続繊維補修補強関係の研究情報を収集し、それらの評価検討を通じて連続繊維補強工法の普及・進展を図ると共に、会員支援に向けた協会の技術的基盤整備をすすめる。

2) 研修会用テキスト等教育研修用媒体の整備

教育研修会及び有資格者の自己研鑽を目的とした協会ツールを継続的に整備し、これらの媒体を2020年版として改訂、整備する。直近の行政、社会状況及び施工技術・製品環境にあわせた改訂のほか、実用性の高い資料として整備し、受講者・資格者に提供する。

3) 広報活動の推進

連続繊維補強工法及び資格認定制度等の協会活動について、工事上流側の理解を高めるよう、土木、建築系の発注者・監理者への広報活動を進める。

ホームページは特に有力な広報媒体であることから、掲載内容を常に整備し、協会活動の最新情報を適時発信する。収集整理した技術情報等を、会報やホームページを使って伝え、またホームページ経由 Q&A への円滑な対応を図って工法の普及を図る。

連続繊維及び補修補強工法に係る関係団体等との交流機会を深め連続繊維補強工法の浸透を図ると共に、業界紙や関係雑誌への記事投稿の機会を積極的に捉える等により連続繊維補強工法や資格者の活用を広く訴求する。

4) 共同研究の推進

2017年4月から開始された国立研究開発法人土木研究所が進める共同研究「連続繊維補強されたRC床版の耐久性評価に関する共同研究」は、試験研究などを新に加え、期間を2年間延長して(2021年3月まで)実施している。今期は試験研究の本格的実施期間となるので、残された課題の検討とあわせ研究成果を実用化につなげられる様一層の推進を図る。

(4) 会員との連携

協会ホームページを定期的に更新し、各種案内(試験案内、会報他のお知らせ)を適時伝達するよう、協会活動全体についての会員向け案内を充実する。